



高岡西部小だより



令和8年1月21日 発行 No.9

高岡市立高岡西部小学校

高西小 HP

★3学期のスタートにあたって～馬のように感じ合い、支え合って進む3学期へ～

3学期がスタートしました。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

今年は午年です。始業式には、「馬は、ただ前を向いて走るだけでなく、手綱の具合や周囲の様子、気持ちを感じ取りながら走る」という話をし、「馬のようにお友達の気持ちにも心を寄せ、みんなで協力して引き続き『一人一人が輝く学校づくり』を進めていきましょう」と子供たちに呼びかけました。

本校でみんなに可愛がられているウサギの「くるみちゃん」も、白内障を患いながら、子供たちの温かいお世話のお陰で元気に新年を迎えるました。近付くと寄ってくるウサギの姿からは、子供たちの優しさが伝わってきます。「くるみちゃん」に負けないくらい子供たちも元気いっぱいです。



そして、日頃より、登下校時の見守りをしてくださっているパトロール隊、保護者の皆様には、寒い中、誠にありがとうございます。寒さに紛れて、あいさつが十分でない子供もみられますが、ぜひ温かい声かけとともに、あいさつの大切さを伝えていただければ幸いです。

★子供たちを迎える教室から

学年のまとめとなる学期を迎え、教職員も心新たに張り切っています。始業式の日、各教室の黒板には、担任一人一人の思いが込められた温かなメッセージが書かれていました。「またここから頑張ろう」という意気込みと子供たちへの変わらぬ願いが感じられました。



★ご家庭での見守りのお願い～金銭トラブル・ネットトラブル防止に向けて～

 最近、子供同士でのゲームセンター利用に関わる金銭トラブルや、携帯電話・SNSの投稿をきっかけとした人間関係の行き違い等、子供たちのトラブルがみられます。

ご家庭におかれましては、お小遣いの使い方や帰宅後の過ごし方、インターネットや携帯電話の利用について、改めてお子さんと話し合い、ルールを確認していただければと思います。併せて、日頃のお子さんの様子を温かく見守っていただきますようご理解とご協力を願いいたします。

★よさを見付け、伝える広報委員会

広報委員会では、学校中を見渡しながら、「友達のよさ見付け」に取り組んでいます。子供たちは、自分たちで写真や文章を考え、日常の中で見付けた友達のよさを記事としてまとめ、校舎内に掲示しています。こうした活動を通して、互いのよさに気付き、認め合う輪が学校全体に広がっています。



★授業づくりを支える職員室のひとコマから・・・



国語や算数だけでなく、道徳をはじめとするさまざまな教科に日々向き合っている高岡西部小の先生たち。分かりやすく、そして楽しい授業を届けようと職員室では毎日、教材研究に励んでいます。

気が付くと、あちらこちらで先生同士のミニ授業研修会が自然と始まっています。デジタル教材を活用した資料づくり、子供たちの思考を深める発問の工夫、一人一人の学習の進度に応じたプリントの作成等、話題は尽きません。

職員室に並ぶ先生たちの表情は真剣そのもの。そこには、「子供たちにもっと分かる喜びを味わってほしい」という共通の思いが溢れています。

★「マイプランタイム」～先生たちの工夫が詰まった動画でスタート～



一人一人が自分で考え、主体的に学習する力を育てるため、本校では今年度より「マイプランタイム」を設定しています。毎週木曜日の30分間、子供たちが自ら学習の計画を立て、意欲的に取り組む時間です。3学期のテーマは、「新〇年生に向けてできることを考えて行動しよう！」です。

その手始めとして、子供たちの意欲を高めるため、先生たちが動画を作成しました。これまでの歩みの振り返りや、テーマに込めた思いをユーモアを交えた語りとともに動画にまとめました。この動画を視聴してから、いよいよ「マイプランタイム」が本格的に始動します。子供たちが、どのように自分なりの「マイプランタイム」を創り上げていくのか今からとても楽しみです。



★学校給食週間に考える、食品ロスと日々の心がけ



今年の学校給食週間の献立テーマは、「給食で学ぼう SDGs!～地球にやさしい食べ方を考えよう～」です。それにちなんで、食品ロスを減らす取組の一環として給食調理員や栄養士が携わる給食後の片付けに着目したビデオを作成し全校で視聴しました。



ビデオでは、給食のおたまやバットを一つ一つ丁寧に洗い、残った牛乳はパックを一本ずつ開けて処理すること、残菜を分別し、食器をクラスごとに数を確かめながら乾燥機に入れていく様子が紹介されました。約600食分の給食をつくり終えた後も、清潔と安全を第一に考えた後片付けは16時過ぎまで続きます。



今回の取組を通して、給食づくりの裏側には食品ロスを減らすための多くの工夫と手間があることを知りました。給食に関わる方々への感謝の気持ちを改めて感じるとともに、自分に合った量を考えて食べることの大切さに気付く機会となりました。